

ノロウイルスによる感染性胃腸炎への対策

厚生労働省は11月27日、ノロウイルスによるとみられる感染性胃腸炎の患者が増加しているとし、感染拡大への注意を呼びかけた。その後、先週から今週にかけては、仕出し弁当やホテルの料理を原因とする大規模な食中毒が発生している。ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、例年冬季に流行がみられるため、今後の流行を前に感染予防策の徹底が求められる。

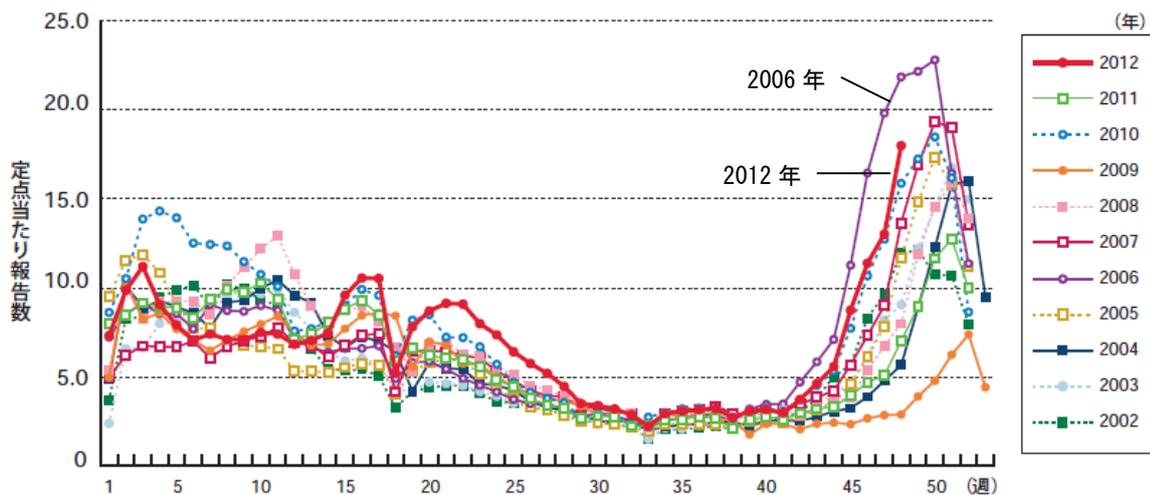
本稿では、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の発生状況と、感染予防対策についてまとめる。

1. ノロウイルスによる感染性胃腸炎の発生状況

(1) 週別の発生状況

国立感染症研究所の感染症発生動向調査によれば、11月26日から12月2日にかけて（第48週）のノロウイルス等による感染性胃腸炎¹の定点当たりの患者報告数²は18.00で、10月中旬以来増加が続いており、前週（第47週）の13.02と比べ大きく増加した。またこの時期としては、過去10年間のうち、ノロウイルスが大流行した2006年に次いで多い水準となっている。全国各地で11月後半以降寒い日が続いており、低い気温を好むノロウイルスの活動が活発化したことが一因と考えられる。

感染性胃腸炎の年別・週別発生状況（2002～2012年第48週）



「IDWR（感染症発生動向調査週報）2012年第48週」（厚生労働省 国立感染症研究所）より抜粋

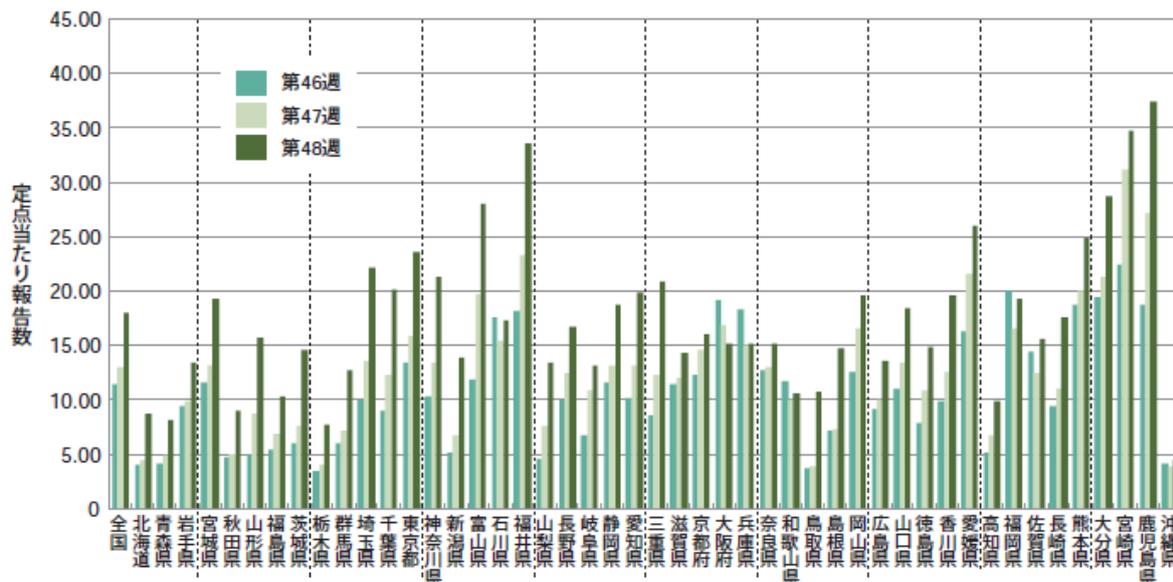
¹ 感染性胃腸炎は様々な原因による症候群名である。大半はノロウイルス等のウイルス感染を原因とするもので、特に冬季の集団発生例等の感染の原因の多くはノロウイルスによるものと考えられる。

² 医療機関の中から無作為に選定された定点医療機関における、平均の報告患者数。ノロウイルス等による感染性胃腸炎の発生状況は、全国約3,000ヶ所の小児科定点に基づく。

(2) 都道府県別の発生状況

11月26日から12月2日にかけての定点当たり報告数が多い上位5位の都道府県は、鹿児島県(37.42)、宮崎県(34.72)、福井県(33.59)、大分県(28.67)、富山県(28.03)で、いずれも発生数は増加傾向にあり、特に鹿児島県や福井県では前週と比べ10近く報告数を延ばしている。

感染性胃腸炎の都道府県別定点当たり報告数の推移(2012年第46~48週)



「IDWR(感染症発生動向調査週報)2012年第48週」(厚生労働省 国立感染症研究所)より抜粋

(3) ノロウイルスによる食中毒事件の発生状況

厚生労働省によると、11月に報告のあったノロウイルスによる食中毒事件は47件で、例年同月(2007年から2011年の平均は19.8件)を上回った。なお、12月1日から11日にかけての報告数は11件であったが、事件あたりの感染者数は11月の29.81人から71.18人に大幅に増加しており、大規模化の傾向がうかがわれる。また、11日以後の報道でも下表に挙げるような比較的大規模な食中毒事件が相次いで報じられている。

12月11日以降に報じられた主なノロウイルスによる食中毒事件

発生日	地域	感染者数	原因
12月10・11日	広島県広島市	千人以上	仕出し弁当
12月10~12日	山梨県山梨市	319人	仕出し弁当
12月11日	宮崎県宮崎市	85人	スーパーの弁当
12月16日	千葉県成田市	70人以上	ホテルの料理とみられる

※新聞報道などに基づき作成

2. ノロウイルスの特徴

(1) 感染経路

ノロウイルスの感染経路は主に、ウイルスが付着した水や野菜、果物、貝類などの食べ物等を口にするることによる経口感染である。感染力が非常に強いため、感染者の便や嘔吐物を処理した人を介して二次感染する例も多く見られる。また便や嘔吐物の処理が不適切な場合、便や嘔吐物から舞い上がった飛沫や、乾燥したウイルスを含む塵埃により感染する可能性もあるとされる。

(2) 症状

ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で、腹痛・下痢・嘔吐・発熱などの症状が突然現れる。感染しても発症しない場合もあり、発症しても健康な人であれば数日以内に治癒するとされる一方、重症化して死亡する事例も出ている。とりわけ、免疫力の弱い子どもや高齢者は脱水症状等を起こしやすいため、注意する必要がある。

(3) 治療

ノロウイルスに対する有効な薬はないため、治療は症状を抑える薬の服用や、脱水症状を防ぐための点滴などの対処療法に限られる。そのため、次節で取り上げる感染予防対策が重要とされる。

3. ノロウイルスの感染予防策

(1) 感染予防策

ノロウイルスに対する主な感染予防策として、下記の対策に取り組むことが勧められる。なお、ノロウイルスの消毒には、通常有効とされる加熱（殺菌に有効とされる75度で1分）やアルコール消毒では効果がなく、加熱（85度以上で1分以上）や塩素（0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液や二酸化塩素液等）による消毒が有効である。

- 帰宅時や調理・食事の前などに、石鹸や温水を使用して丁寧に手洗いを行い、清潔なタオル等で拭く。
- 帰宅時や食事の前などに、うがいを徹底して行う。
- 食事の際に生水・生ものは極力控え、十分に加熱処理を行う。
- 調理器具や食器類は熱湯あるいは塩素で消毒する。
- 職場や自宅の衛生状態に十分注意を払う。

(2) 二次感染防止策

家族や職場で感染者が発生した場合には、二次感染防止策として以下の対策に取り組むことが求められる。

- 便や嘔吐物を処理するときは、使い捨てのマスクや手袋を着用し、周りに飛び散ることのないよう細心の注意を払う。また、掃除機は使用しない。
- 便や嘔吐物の処理後は当該個所を塩素で消毒するとともに、部屋をよく換気する。
- 家具やドアノブなど感染者が触れる場所は、1日に数度塩素でふき取り清潔に保つ。
- 感染者の衣服やシーツを、洗濯の前に消毒する（塩素消毒による色落ちに注意）。

4. 最後に

ノロウイルスは感染力が非常に強いため、1人が感染すると職場やホテルなど人の集まる場所では、周囲に感染が拡大する可能性が高い。集団感染が懸念されるオフィスや社員食堂・ホテルや旅館等においては、衛生管理に注意を払うことが肝要である。また、万一体調に異変を感じる、あるいは感染が疑われる症状がみられる場合は、速やかに会社に申し出るよう指導するとともに、信頼のおける医療機関を受診し早期治療に努めるよう呼びかける必要がある。

(2012年12月18日発行)